

## 第6回 メンターフォーラム 実施報告書

(敬称略) 2011/2/5 作成

日時：2011年1月27日(木) 13:00~17:50

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 55号館S棟大会議室(東京都港区)

参加者：92人

NPO担当者：3人

テーマ：「農商工連携に向けた課題と今後の展望」

I. ご挨拶 (13:00~13:25)  
NPO産業技術活用センター理事長 遠藤 誠

II. 第一部 『農商工連携について考える』 (13:30~14:00)

特別講演 「市場経済と農商工」 早稲田大学教授 藁谷 友紀氏  
市場経済システムと農商工に関して、農商工と産業分類、市場経済システムと農商工の位置・役割について解説があった。又、農業部門の特殊性や連携の意味とシュンペーター・モデルとダイナミズムについて解説された。  
市場システムにおける役割の中で、金融面で充分形が出来ていないと言う事又、農商工連携が核心部分に成る為には 政府の役割も出てくるとの指摘もあった。

講演—1 「何故、今、農商工連携か？」 (14:00~14:35)  
WIT/株システム総合研究所 表取締役 福本 和泰氏

- ・ 農商工連携の必要性:個々の業種の通常取引関係を超えて協力し互いの強みを活かし新商品・サービスの創出により需要の開拓を行う。
- ・ 様々な規制があるが、専門家に委ね対応。小回りの効く生産活動、地域アイデンティティの確立が必要。
- ・ 農商工連携の姿とは農業の基本を踏襲し 消費者まで新製品を供給する体制を構築し、商工業での工夫が必要。農商工連携の仕組みを理解し、6次産業として、地域産業お越しにつなげる。
- ・ いくつかの事例を紹介し それらの結果から助言者(メンター)が必要性である。

講演—2 「農商工連携への国の支援(制度・補助・助成金)」 (14:35~15:00)  
独) 中小企業基盤整備機構 地域活性化支援アドバイザー 佐良土 励氏  
国は、農業、商業、工業の産業間の壁を越えた連携促進を図る為に平成20年5月、農商工等連携促進法を制定し、農商工連携を推進している。  
取り組みに対する支援の紹介、事業化市場化補助金に関する注意事項の紹介。  
農商工等連携促進法の認定要件の解説、認定申請に係る諸注意の紹介。  
最後に成功事例の紹介があった。

III. 第二部 『メンター・メンティから見た農商工連携』

講演—3 「メンターからの意見」 (15:00~15:25)  
ITECメンター/株一休 会長

元日光コーディアル証券(株)会長 金子 昌資氏  
高度に組織化された農業経営によって、高品質且つ、適正価格で精算された農産物を安定的に供給することは国益に沿う。今議論が持ち上がっている TPP にも適応できるものである。  
「平成の開国」へ向けてメンターは貢献できるか? メンターは己の体験、実践を基にアドバイスでき、出身母体を中心とした人的繋がり、メンターが持つ情報網は非常に高い

価値を持っており、チーム力としても発揮できる。中・長期に亘るのアドバイスは必要。メンティからのメンターへの期待とニーズは 販路、事業展開、経営体制、様々な技術、資金、海外展開など 膨大な事柄である。実例を示しつつ メンタリングのポイントを紹介した。実践的メンタリング経験より、農商工連携に適用の足がかりを実感している。

**講演—4 「農商工連携と地域起こし」** (15:25~16:00)

長野県藤見町議会 副議長 小林 市子氏

- ・富士見町の現状として、地域おこしの活動を紹介（町の概況、豊かな自然、地域の歴史、人口構成、町の観光、農業の課題、工業関係そして、環境保全）
- ・農業を核とした地域おこしとしての地域活動の取組、仕組みについて紹介。（農業の再興、交流人口の拡大、定住人口の拡大そして新しい工業、情報化・IT化への取組）
- ・農商工連携は正に地域おこしに繋がるとして、全体で同じ方向への目標を持ち、新たな技術の導入による地域振興を推進して、各種産業間の連携と地域の連携を深めるとしている。そのために 人（指導者、助言者、転入者）もの（売れる産品、工夫、特性）、金（賃金、投資）情報（連携、交流、空き家、機会等）に、期待したいと。

**講演—5 「我が社の農商工連携」** (16:00~16:30)

(株)NASコーポレーション 専務取締役 富田 浩勝氏

会社の概要を説明をしつつ、新事業の取り組みの一環として、農商工連携事業を採択、その取組の背景と経緯について紹介。工業技術を農業に活用することにより 農業の6次産業化に繋げる。その具体的な事例が「植物工場」であり、その取り組み背景と経緯の報告であり、土地柄 行政との連携も密で実践的・現実的で非常に迫力に満ちたものであった。今後の取り組み課題も明確にしており、ITECのメンターの支援を背景に、成功に向けて邁進している印象があり、是非成功を祈りたい。

**IV、第三部 『パネルディスカッション』** (16:40~17:45)

- コーディネーター ITEC 事務局長/早稲田大学 客員研究員 野尻 昭夫氏
- パネリスト WIT/東京工業大学 教授 吉本 護 氏
- パネリスト WIT/(株)システム総合研究所インターナショナル 福本 和泰氏
- パネリスト ITEC メンター/(株)一休会長、元日興コディアル証券会長 金子 昌資氏
- パネリスト 長野県富士見町議会 副議長 小林 市子氏
- パネリスト (株)NASコーポレーション 専務取締役 富田 浩勝氏

**パネルの結論**

- (1) 農商工連携に当たってビジネスモデルの確立必要性和
- (2) コーディネーター・メンターの能力とか経験について 議論した。
- (1) 特殊性を除けば、何を、誰に、どれだけ売り、いくら収益をあげるのか、誰が経営者なのか、リスクはなどを明らかにする必要がある。特殊性とは農商工連携に関して発生する、連携の適正性である。
- (2) 何でも対応できる人材が欲しい。コーディネーターは欠かせない存在で、特にマーケティング、販路に関する人材要求が強い。また、厳しい意見が言える人がよい。メンターとして、これまでの経験と知識を生かせば、基本はできるはず。しかし、食品、流通、観光などの勉強は欠かせない。これから募集するなら、例えば、農産物に関わった商社OBなどはよいのではないかと？

**VI：挨拶** (17:45~17:55)

WIT/早稲田大学 教授 橋詰 匠

今回開催の意義、今後の方向性と決意を述べ、閉会となった。  
(このあと竹内ラウンジで懇親会を実施し 60名の参加を得、盛会の内にお開きとなった。)  
以上